

## ベトナム語講座 講師紹介 グエンティビックジエップ先生

9月27日～11月29日まで毎週木曜日(全10回)ベトナム語入門講座を担当されました。先生はハノイ出身で5年前に来日。日本人の夫、娘、義母の4人家族。習慣の違いや日本での暮らしについて話を伺いました。(広報I)

### 日本にきたきっかけ

ベトナムの大学で日本語を学び、卒業後は日本語を教える仕事をしていました。夫とは同じ大学で知り合いました。彼は日本語を教えていました。子供も生まれ、将来を考え5年前日本に来ました。

### 一番大事なこと

日本では残業の習慣がありますが、これはベトナムではありません。ベトナム人にとって一番大事なことは、夜に家族と一緒にご飯を食べること。その時が一番幸せな時間です。だからベトナム人は残業が好きでないかもしれません。外で食べる習慣もあまりないです。ほとんど家で母親が料理を作ります。

### 料理が大好き

ご飯を作ること、料理をすることが好きです。義理の母も料理が上手。最初は全く日本の料理がわからず、この料理はこの調味料とメモを書いて覚えました。日本料理は何でも好きです。母もベトナム料理が好き。ベトナムのスープを作ったら、お

かずは日本の料理にするなど、家で毎日作ります。

### ストレスフリー

外国に住み料理ができなかったら大変です。私は料理ができるので自国の料理を食べられます。ストレスはたまりませんし、ストレス解消できます。

言葉についても、7歳の娘は、夫とは100%日本語で、私とは100%ベトナム語で話します。ベトナムへは年1、2回帰りますが、私の両親や親戚と話すのも全く大丈夫。親戚の子達がいっぱい遊んでくれて楽しいと言っています。普段も夫と子供だけでベトナムの両親とSNSで話しています。みんなが話せるので、言葉のストレスもないし、心配事もありません。

### 将来の夢

日本でベトナム語センターを開きたいです。なぜかというところの仕事が大好き。教えるのが大好きだからです。将来、娘と一緒にこの仕事ができたらと思っています。



## 交流探歩 あいしんかくらひろ 愛新覚羅浩展

昨年秋、日中平和友好条約締結40周年にあわせ、「杉並区立郷土博物館」において「愛新覚羅浩展」が開催されました。

「清朝」最後の皇帝の実弟、「愛新覚羅溥儀」に嫁いだ「嵯峨浩」の結婚前の時代から、日中戦争をはさんで日本に帰国したのちの生涯を辿ることができるような展示内容となっており婚礼装束や思い出の品々、そして新たに発見された「書簡」などから当時の時代背景と「浩」という女性の一生が彷彿として現れてきました。結婚式会場の軍人会館(後の九段会館)には、祖父「嵯峨公勝公爵」邸(現杉並区立郷土博物館所在地)から向かいました。波乱の生涯を歩み出した場所であるこの地での今回の「展」は、里帰りとも言えるような印象を受けました。そして日本と中国の交流史という観点から一層感慨深いものを感じました。(広報Y)



## Event Information from SACE 交流イベント情報

### 国内交流自治体からのお知らせ

●小千谷フェア  
新潟県小千谷市の新鮮野菜や魚沼産コシヒカリなどの販売  
◇日時: 1月27日(日)、2月24日(日)、3月17日(日)  
11:00～13:30  
◇場所: 小千谷学生寮駐車場(井草4-16-23)

●南伊豆町観光物産展  
伊勢海老の味噌汁試食サービスほか、干物や海藻など南伊豆町の特産品販売  
◇日時: 1月28日(月) 10:00～14:30  
◇場所: 区役所中杉通り側入口前・1階コミュからショップ前

●蚕糸の森まつり  
杉並区交流自治体合同物産展  
◇日時: 3月31日(日) 10:00～15:00  
◇場所: 蚕糸の森公園運動場・杉並第十小学校

※いずれも雨天実施。物産販売は売り切れ次第終了となります。マイバッグ(買い物袋)をご持参ください。問合せ: 区役所文化・交流課交流推進担当 ☎03-3312-2111(代表)

「交流ニュース」へのご意見・ご要望・メッセージなどをお寄せください。お待ちしております。

# すぎなみ交流ニュース

Suginami Cultural Exchange News

第51号

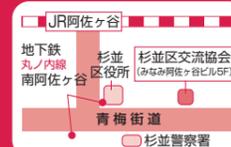
2019年1月

스기나미 교류 소식  
杉並的交流消息

発行: 杉並区交流協会  
[Suginami Association for Cultural Exchange(SACE)]  
〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階  
[Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]  
TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail: info@suginami-kouryu.org

<http://www.suginami-kouryu.org/>

◆年4回発行◆ 協会情報誌は区内施設窓口、区内の駅広報スタンドなどに置いてあります。



HP・Facebook 随時更新!!



### 目次

海外文化セミナー  
ベトナム報告他 ..... 2

異文化理解講座報告他  
..... 3

ベトナム語講師  
紹介他 ..... 4

## 第16回 日本語スピーチ大会 発表者募集

### 発表者募集

日本に住んで体験したこと、驚いたこと、自分の国とは違うことなどを、学んだ日本語を使って発表してくれる外国人の方を募集します。当日の観覧者も募集しています。

日時: 2019年3月2日(土)  
午後1時30分から5時まで

場所: 座・高円寺2 地下2階  
(杉並区高円寺北2-1-2)  
JR高円寺駅より徒歩5分

発表時間: 5分程度

発表者募集人数: 10名

テーマ: 日本に来て感じたこと、自分の国のことなど

賞品: 優秀賞などの他、参加者全員に記念品  
締切: 2019年1月18日(金)  
(応募者多数の場合は選考し、1月末までにご連絡いたします。)

申込方法: 申込書(協会HPに掲載)を郵送、Fax、またはE-mailなどでお申込みください。

### 表彰式



昨年の様子

### 観覧者募集(募集人数: 200名) 入場無料

日本で暮らしている外国の方のお話を聞いてみませんか? 外国の方が感じたこと、体験したこと、出身国のことなどについて発表します。

申込方法: 氏名(ふりがな)、住所、電話、お持ちの方はFax番号を記入して、電話(またはハガキ、Fax、E-mailなど)で杉並区交流協会までお申し込みください。

## 外国人のための 無料専門家相談会

Free Professional Consultation for Foreigners

お気軽にご相談ください。ビザ・結婚・離婚・仕事・年金・保険・税金に関わる問題など、弁護士などの専門家が無料で相談をお受けします。秘密厳守。託児あり。



日時: 2019年1月26日(土) 13:00～16:00  
(受付は15:30まで)

場所: セシオン杉並 1F 展示室(梅里1-22-32)

【専門家】 弁護士・行政書士・税理士・社会保険労務士など

【通訳】 英語・中国語・韓国語・イタリア語・ポルトガル語・タイ語・ベンガル語・ネパール語(予定)

【申込み】 当日会場へ直接お越しください。予約もできます。

## 『外国人おもてなし語学ボランティア』育成講座

東京都在住・在勤・在学の方

日時: 2019年2月14日(木) 13:00～16:30  
場所: 杉並区役所6階 第4会議室(阿佐谷南1-15-1)

【対象】 英語による簡単な日常会話ができる方(概ね英検2級以上、TOEIC500点以上) ※おひとり1回限り。すでに「外国人おもてなし語学ボランティア」として登録された方はお申込み・受講ができませんのでご了承ください。

【定員】 60名(申込順)

【参加費】 無料

【申込方法】 講座名、住所、氏名、年齢、電話番号をE-mail、または電話にて杉並区交流協会まで ※申込受付開始は1月15日(火)から

## 交流協会の会員になりませんか? 杉並区交流協会では、国内・国際交流の推進をはかるために、様々なイベントを企画しています。あなたも会員になって、楽しく交流しませんか?

●年度会費  
・個人会員 1,000円/年(9月以降入会の場合は初年度に限り500円)  
・法人会員 20,000円/年  
●会員期間  
入会の月から3月31日まで(当年度末)

●会員特典  
① イベントの情報や交流に関する情報紙[交流ニュース(年4回発行)・NEWS LETTER(年8回発行)など]をお届けします。  
② 協会が実施するイベントに優先的に参加できる会員枠があります。  
③ イベント参加費に会員割引があります。

●申込方法  
入会希望の方は杉並区交流協会まで電話・ハガキ・Fax・E-mailにより申込書類をご請求ください。

# 海外文化セミナー ペトナム

2018年12月8日(土) セシオン杉並

▶杉並区交流協会では、毎年ひとつの国を取り上げ、区民の皆さんに広くその国の特徴や国民性などを紹介する「海外文化セミナー」を開催しています。今年度は日本との外交関係樹立45周年にあたりベトナムを選び、講演や文化の紹介をとおして来場者の方々に「ベトナム社会」の一端を知っていただけるような「セミナー」を目指しました。

▶最初にお話ししていただいたのは駐日ベトナム大使館教育担当一等書記官ファム・クアン・フン氏でした。「ベトナム事情と日本・ベトナムとの関係」というテーマに沿って、食材の農産物を糸口にして、農村部には総人口の64.9%が暮らす農業国として位置づけられる状況にあることを具体的に説明。そして、代表的な農産物の輸出品は米とコーヒーだそうです。



ファム・クアン・フン氏

日本とベトナムの関係として、観光での接点について、ベトナムを訪れた日本人観光客は2017年現在で約80万人、一方日本を訪れたベトナム人は同じく2017年現在で約30万人という数があります。更に近年の日本企業の進出といったことについては、現在韓国について第2番目の位置という緊密さが印象的でした。90年代の食品メーカーから、ついでバイク等の工業関連など、そして「ショッピングモール」の形態となるようなプロジェクトなどといったその変化と規模の説明もあり、それは新たな国民生活への流れへと人々を導いてきた要因のひとつと言えるようです。

経済成長に伴う時代の変化のため、火力発電所といった日本のインフラ輸出や、それまでの企業進出の大手に代わって、中小の製造業、流通、サービス業の進出や、日本の地方自治体も加わっての企業・産業進出が昨今の傾向とのことで、そこでの様々な人々の交流の展開が付け加えられて約1時間わたる講演は終了しました。平易な言葉で話されましたが、ベトナム社会がイメージとして浮かび上がるようなまとまりのある内容に、聴講した方々は満足し、新鮮な感動を受けたのではないのでしょうか。

▶拓殖大学国際学部特任教授小高泰氏による講演は、1970年代を知る人は誰もが知りたい現在に至るベトナムの歩んできた変化についてです。「ドイモイ前と現在のベトナムを知る」という講演の題名どおり、ベトナム戦争終結から今のベトナムへと進展する中で「ドイモイ」という改革がもたらした、それ以前と以後のベトナムでの生活で体験した社会変化を感想を交えて講演しました。それまでの計画経済から市場経済へと大きく舵をとった「ドイモイ政策」、そしてその影響下のベトナム社会の中での自身の体験談。また、ドイモイという政策を背景に海外に活路を求めながら生じてくるカルチャーショックや問題点等、豊富な現地取材に裏付けられた内容を



小高泰氏

に「ベトナム理解」が楽しくまた広がりを感じました。  
▶東京ベトナム学校による舞踊、竹ダンス、伝統単弦楽器「ダン・バウ」の独奏、ベトナム歌謡の独唱、在日ベトナム学生青年協会による舞踊の披露があり、ベトナム文化や芸能を楽しむ機会となりました。また、それぞれのアオザイファッションショーでは、伝統的なものに流行をアレンジした衣裳で、会場の観客を魅了しました。  
▶屋内会場では、観光紹介や物産品販売などがあり、ベトナム大使館提供の写真展示、ベトナム民間美術紹介(版画の展示と販売)、青年海外協力隊JICAのOB/OGによるベトナム紹介も。また、屋外中庭ではベトナムの食材やベトナムの「おこわ」、サンドイッチ「バインミー」とスイーツ等の販売が行われ、冷える天候の中、南の国の食を味わい楽しみました。  
▶今回のセミナーには約650名が参集しました。「今のベトナムや日本との関係がとてもわかりやすかった。更にベトナムに興味がわき、訪ねてみたい。」といった感想が寄せられました。(広報部Y)



## ホームビジット(交流自治体中学生親善野球大会)を開催しました

2018年10月8日(月・祝)

交流自治体中学生親善野球大会のために来日した台湾の中学生が、杉並の中学生とご家族と共に時間を過ごす、ホームビジット事業が実施されました。この事業は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした、区民と国内・国外交流自治体等の住民との交流を促進するため杉並区と杉並区交流協会が連携して取り組むものです。

10月8日(月・祝)、親善野球大会終了後、台湾の中学生30名が杉並区の中学生16名とご家族(ホストファミリー)と共に夕刻のひと時を過ごしました。初めは緊張した面持ちの台湾と杉並の中学生達。食事の後、ゲームをしたり、卓球をしたりするうちに打ち解けた様子でした。「中国語がわからず不安な面もありましたが、翻訳アプリやジェスチャーで、何とか会話をつなげることができました。いつかまた再会できると嬉しいです。」「親子で貴重な体験ができました。最後は名残惜しそうにお別れしていました。」などの感想が聞かれました。

交流協会は区と協力して、今後もホームステイ・ホームビジット事業を通じて、住民同士の交流を深めるお手伝いをしていきたいと思ひます。



## 異文化理解講座 ロシア

2018年10月10日(水) 於:杉並区交流協会

異文化理解講座「ロシア」を開催しました。講師は杉並区在住、日本語学校留学生のブルラコフ・オレグさんです。  
ロシアは約200の民族からなる多民族国家で、衣装、料理、言語も様々。広い国土のため気候も様々だと説明された後、ご出身地のカレリアについて、くわしく話をされました。

カレリアは、6万もの湖、2万7千もの河川、針葉樹の森や湿原など豊かな自然に恵まれたところだそうです。美しい景色の写真をたくさん見せていただきました。オレグさんは、新幹線に興味を持ったことから日本語を学びはじめたそうです。来日1年未満ですが、学んだ日本語で故郷のことを真剣にお話しする姿が素敵でした。

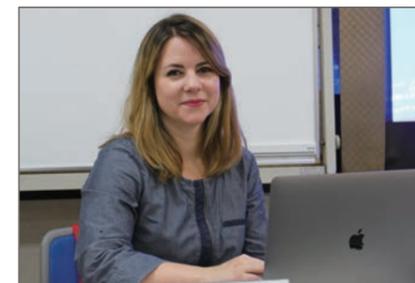


### 参加者の声

- ◆カレリア地方の風景写真は、これまで見たことのないようなものばかりで、地球の広さを感じた。
- ◆観光資源の豊富なカレリアへの旅をしてみたい。
- ◆具体的な内容とやさしい人柄がよかったです。

## 異文化理解講座 スペイン

2018年10月17日(水) 於:杉並区交流協会



スペイン、バスク出身で杉並区に約1年前から在住しているネリア・デ・アイメリッチさんを講師にお迎えして、特に日本での生活への興味や関心そして驚きなどをスペインの文化と対比させながらお話していただきました。会場の交流協会にはほぼ満席の23名が参加し、普段の感覚で捉えた印象を話す講師の言葉に耳を傾けていました。若いネリアさんの飾らない感動や考えに「今日のスペイン」的な新鮮さを感じられました。

講話はパワーポイントで、適宜に映像による紹介もありスペインの風土や生活をより理解できるような配慮がなされました。また、東京に住むようになってからの日本に関しては、子育ても含めスペインの生活との違いを率直にそして的確に表現、それらから双方の文化の魅力と問題点を発見できたように思います。(広報Y)

## 異文化理解講座 韓国

2018年10月18日(木) 於:杉並区交流協会

講師にお迎えしたのは杉並区交流自治体・ソウル特別市瑞草区から杉並区に派遣され研修中の鄭 哲元さん。はじめにソグオンさんが日本で暮らす中で感じた文化面での日本と韓国の違いについての紹介があり、次に韓国の言語、食文化、恋愛と結婚など多彩なテーマについてお話をうかがいました。

ソグオンさんはジブリ映画や日本アニメ、J-POP を通じて日本に関心をもった世代。韓国では世代間でアメリカと日本と中国に対する思いが異なっていることに触れながら、「違いよりも共通点を発展させ、違いをお互いに認め合っていきましょう」と締めくくりました。「一番近くて、一番遠い国」とも言われる韓国ですが、ソグオンさんのお話を通じて少し距離が縮まったように感じた講座でした。(広報部T)



## 語学ボランティアスキルアップ講座

～杉並区の防災対策を学ぶ 2018年11月29日(木) 於:杉並区役所

前半は杉並区役所危機管理室防災課長の「杉並区地域防災計画と外国人支援について」の講演、後半は防災課長と杉並区在住外国人(中国、ネパール、韓国出身者)のパネルディスカッションの二部構成でした。国によって災害の種類や防災の考え方が違うことを知る貴重な機会になるとともに、災害時に必要なことは「やさしい日本語」で情報が受け取れるようにすることが大切だと確認できました。(広報部T)



右から閔愛(ウエンウエン)さん(中国出身)、キラン・タバさん(ネパール出身)、鄭 哲元(チョン・ソグオン)さん(韓国出身)

今回講師をされた、杉並区区民生活部文化・交流課研修生(平成30年7月～12月)鄭 哲元さんから寄稿いただきました。鄭さんには杉並区交流協会のイベント等で多大なご協力をいただきました。

**おもてなしの東京、さすが国際的な都市**  
おもてなしという言葉は、2020年の東京五輪招致を機に、有名になった言葉だ。その言葉どおり、東京は今、オリンピックのお客様を迎える準備でいっぱい。一方、他国では観光客が少なく困っているのに、日本では、今年外国人観光客があまりにも多く来すぎたので心配だという記事を読んで、びっぴりした。このように日本は国際的な人気の都市だ。うらやましかった。日本に住んでみて、外国人観光客が多い理由が分かった。市民意識が発達していて、道はいつもきれいで道で会った人たちは皆親切だ。さらに外国人のための配慮が多い。特に、言語に対する区役所の努力に驚いた。外国人でも聞きやすく、窓口の職員や防災ボランティアのためのやさしい日本語の講座に参加して感動した。皆本気で外国人対策に取り組んでいた。  
**離れていても、馬が合う**  
私はもう6ヶ月の日本研修を終えて韓国に帰る。日本に滞るの間、友達も沢山出来たし、良い思い出もいっぱい作った。忍野村のそば、小千谷市の花火大会、南伊豆の青い海でのカヤック、福島震災現場体験、千葉県南房総での星を見ることなどの多くの思い出を胸に抱えて帰るようになる。離れていても、馬が合うという言葉通り、私はいつまでも皆さんと一緒にいるはずだ。